

学習の仕方

まずは、アルファベット順に並べた英単語を見てその日本語訳を覚えてゆくことになるが、英文読解に関しては英単語は書く必要はない。もちろん日本語訳も書く必要はない。実際に英単語と日本語訳を黙読してゆくことになるが、英単語は間違った発音をして、例えば「予言する」という意味の **prophecy** を「プロフィシー」のように発音しても全く問題ではない。だから発音記号は記していない。

点で区切られた訳語、例えば **temperance** の「節制」と「自制」は、自分の覚え易いものを覚えたらよいのであって、2つとも覚える必要はない。また丸かっこの中は覚えなくても構わない。例えば **reimburse** の訳語は「(費用など)を払い戻す」となっているが、覚えるのは「を払い戻す」だけでよい。斜線で区切られた訳語については、両方とも覚える。例えば **mundane** の訳語は「日常的な／世俗的な」となっているが、これは2つとも覚える。さらに、カギかっこが付いているもの、例えば **disarmament** については、「軍備の撤廃」もしくは「軍備の縮小」のいずれかを覚えればよい。

このようにして最後まで行ったら、今度は最初に戻って、日本語の部分を下敷きなどで隠し、英語だけを見て日本語が正確に思い出せるのなら、英語の頭にある□にチェックを入れ、それを最後までやる。さらにまた最初に戻り、今度は英語を隠し、日本語を見ただけでそれに相当する英語が思い出せるのなら、日本語の頭にある□にチェックを入れる。要は日本語訳を正確に思い出せるかどうかだから、この作業は必要ないと思われるかもしれないが、英語から日本語だけでなく、日本語から英語へ向かうアプローチは、記憶を確かなものにするには必要なことなのである。

是非頑張って最後までやり遂げていただきたい。